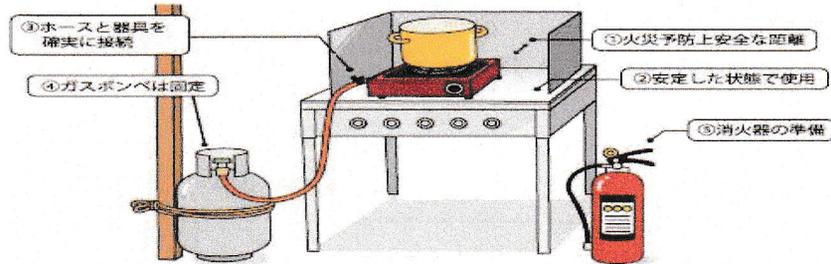


火気器具やガソリン取扱いの安全ポイント

💡 火気器具の取扱いチェックポイント



① 火災予防上安全な距離を取りましょう

建築物や可燃物から安全な距離（ガスコンロの場合は約15cm）を保ちましょう。
周辺には燃料や可燃物を放置してはいけません。
可燃物等で風除けをいけません。

② 安定した状態で使用しましょう

不安定な場所には設置しないでください。また、コンロより大きな鉄板や鍋の使用、ガスコンロなどを2台並べての使用は大変危険です。

③ ホースと器具を確実に接続しましょう

ガス漏れ防止のため、器具との接続部分をホースバンド等で締め付け、ひび割れや亀裂がないか使用前に点検を行ってください。

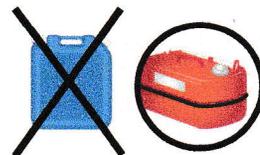
④ ガスボンベは固定しましょう

火気器具の熱を受ける場所や直射日光の当たる場所は避け、目の届く範囲に置き、倒れないように固定物に固定し、絶対に横置きはやめましょう。

⑤ 消火器を準備しましょう

住宅用の消火器や水バケツではなく、業務用消火器（4型以上）を準備してください。消火器の使用期限は製造年より10年です。期限の切れた消火器はとて危険なので使用しないでください。

💡 ガソリンの取扱いチェックポイント



① 金属製携行缶を使用しましょう

灯油用のポリタンクにガソリンを入れることは静電気による引火の可能性が高く大変危険です。
必ず、消防法令で定められた金属製携行缶を使用しましょう。

② ガソリン補給時にはエンジンを停止して行いましょう

使用前に十分に給油し、発電機等の使用途中に燃料の補給が必要ないようにしてくださいやむを得ず給油する場合は、必ずエンジンを停止し、近くに人や火気のない安全な場所で、開口前のエア抜きを必ず行い取扱いには十分注意し、特に夏には、ガソリンの温度が上がり吹きこぼれやすくなりますので注意してください。

③ ガソリンは適切な場所で保管しましょう

火気や高温部から離れた、直射日光の当たらない換気の良い場所で保管しましょう。金属製携行缶で貯蔵し、地面に直接置くなど、静電気の蓄積を防ぎましょう。使用時以外は容器の開口部を確実に閉める。確実に閉める。